



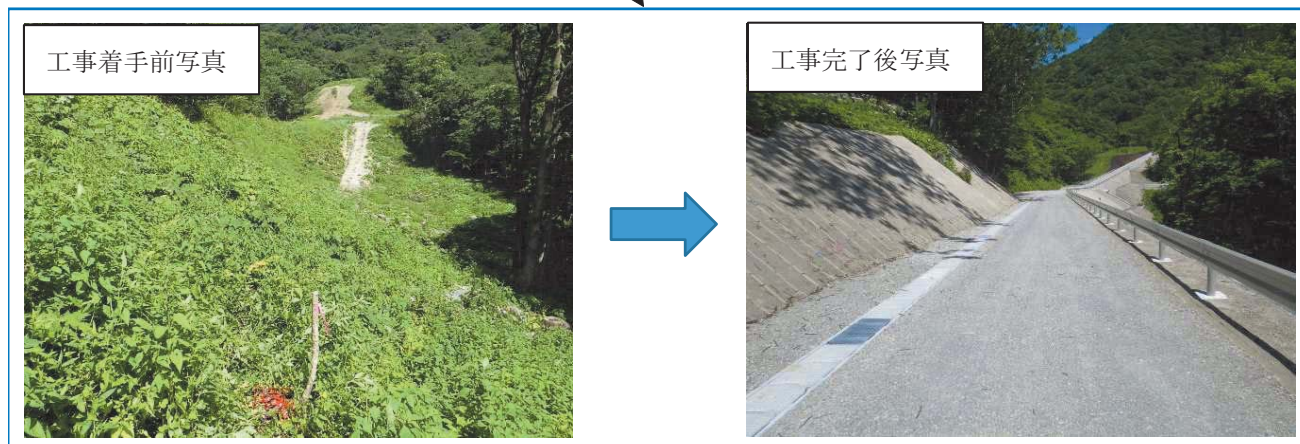
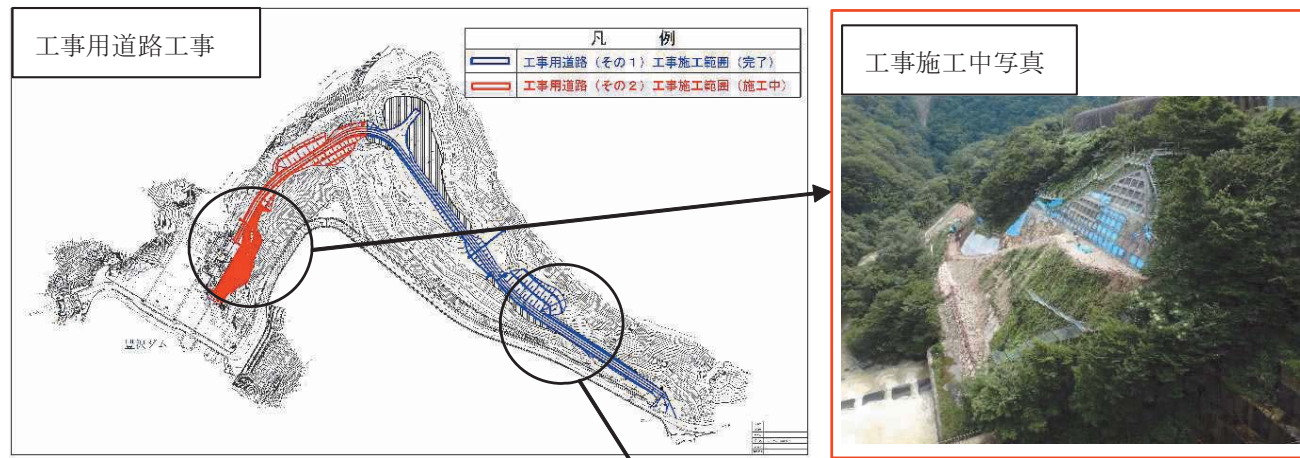
ご挨拶

東北農政局 和賀中央農業水利事業所
豊沢川農業水利事業建設所長 木村 俊逸

豊沢川土地改良区組合員の皆様には、平素より国営豊沢川農業水利事業の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年の夏は記録的な日照不足と低温となり、関係者の皆様に於かれましては農作物等の管理に大変なご苦労をされているとのことで、心より敬意を表する次第です。

さて、本事業については3年目を迎え、工事も順調に進んでおります。既に工事用道路（その1）工事【施工延長：L=380m】が完了し、現在は①工事用道路（その2）工事【施工延長：L=186m、工事受注者：岩田地崎建設（株）、工期：H29.3.14～H30.2.28】、②豊沢ダム堆積物撤去工事【取水塔周りの堆積物撤去1式、工事受注者：ノダック（株）、工期：H29.7.3～H30.3.16（現地作業は11月中旬頃から予定）】が進められています。また、今後は豊沢ダム基礎排水孔工事を12月頃に発注する計画です。これからも安全に留意して順次工事を実施して参りますので、引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



皆様には平素より当土地改良区の業務運営全般に亘り格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
近年の局地的な集中豪雨など、異常気象の常態化が危惧される中、七月と八月に発生した豪雨と九月の台風十八号による暴風雨は当地域にも多大な被害をもたらしました。被災されました皆様からお見舞い申し上げます。
さて、今年の用水管理は代掻き、田植え期以降は降雨が少なく、六月末には豊沢ダムの貯水量が取水制限検討ラインの一千二百万トン（50%）となり、先行きが心配されました。幸い七月三日からの降雨により回復し、その後、順調に推移したところであります。
ご承知のとおり、近年、用水の供給能力不足が顕在化の傾向にあります。これは農業法人等の農業機械の大型化と新規需用米の生産拡大が進み、作業ピークの分散から生じた絶対的な必要水量、必要時期に大きな変化が生じてきていることに起因しています。
先の圃場整備事業における、かんがい能力の設計諸元と昨今の農作業の実態とに大きな差が生じ、用水配りの能力が追いつかない状況になっていきます。配水管理施設の改修・更新と反復利用の強化や管理体制の見直しなど、抜本的な対応が不



ごあいさつ

理事長
平賀 巖

可欠です。
一方でコスト重視の観点から、水管理が相対的に粗放になってきていることも事実であり、限られた用水の有効利用について、意識を強く喚起して参りたいと存じます。
こうした中、最大貯水源であります豊沢ダムの改修に係る国営かんがい排水事業「豊沢川地区」につきましましては、取付道路等の整備が鋭意進められております。
この改修事業の進捗と併せ、基幹的な用水施設の整備につきましても、県当局と一体となって調査・検討を進めて参りたいと存じます。
さて、国は、昨年八月に新たな「土地改良長期計画」を、十一月には、改訂「農林水産業・地域の活力創造プラン」を策定し、これら施策を具現化するための大きな手段として、先般、土地改良法等の一部を改正する法律が成立しました。
現在の優良な農業地域は、全てしっかりとした土地改良事業による基盤整備の上に成り立っているのは、紛れもない事実であります。
水田経営が中心の当地域の農業を将来に亘って、しっかりと下支え維持していくためには、新たな農業施策の展開と軌を一にした土地改良事業の選択的実施が重要であります。まず、農地の大区画化、暗渠排水と用排水施設の改修・更新を短期集中的に実施することが、喫緊の重要課題と考えます。
このためには、施策実施の裏付けとなる予算の確保が重要です。
平成三十年度における農業農村整備関係の概算要求では五千二十億円、対前年比124.9%と大幅な増額がなされ、基盤整備事業には八百六十億円、対前年比148.3%と重点配分されております。
しかし、概算要求額が満額決定されても平成二十一年度と比較しますと、87%と依然として下回っている状況にあります。引き続き予算の拡大、確保に最大限の努力を傾注して参ります。

安全・安心な食料の供給基盤である農地の整備と農業水利施設の適切な維持管理は土地改良区に課せられた、基本的な使命であります。これを着実に果たすため、組合員はもとより関係行政機関及び各農業団体と密接な連携を図りながら、一層の努力を傾注して参る所存であります。
平成二十八年度の事業施行状況であります。各事業は概ね計画どおり実施したほか、一般会計の収支におきましては、三千六百四十九万五千円余の繰越となったところであります。
賦課金の収納状況につきましては、最大時には三千万円超となっております。未収金は、国の経営安定対策基盤整備緊急支援事業による利子補給の取り組みとも相まって、九百七十五万八千円余と大幅に減額となったところであります。
各組合員には、厳しい農業経営が強いられ、状況にありますが、土地改良区の最大の財源であります賦課金収納の公正、公平の原則を守り、常に完納していただいております。組合員の納付意欲に影響を及ぼすことのないよう、対応して参りたいと存じます。
課題も多く厳しい農業経営が続くものと予想されます。これに連動する形の中で、当土地改良区の運営も厳しさが増すものと存じますが、改良区本来の「水土里」の社会資本を整え守るという基本的な使命を着実に果たして参らなければなりません。皆様のご協力の下、役職員一丸となつて一層努力して参りたいと存じます。
末筆になりましたが、これから先、天候に恵まれて、無災害で秋の取り入れが進みますことと、皆様方の益々のご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

